

“TAMBAツーツリズム”による
森の京都の活性化政策
－丹波ワインをキーコンテンツとして－

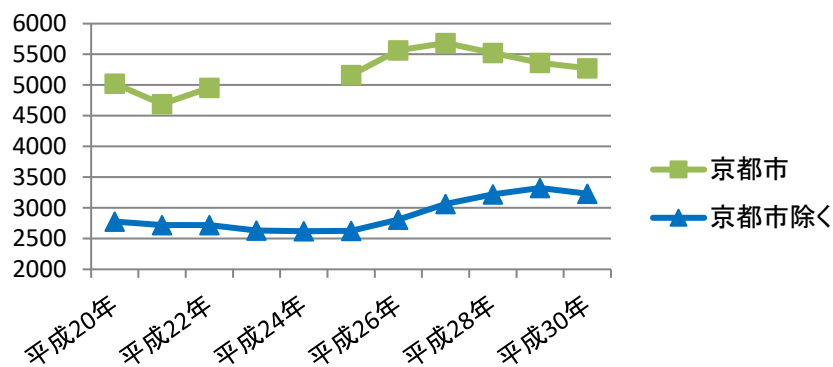
12月16日@京都府庁
同志社大学 政策学部 田中ゼミ 3 回生
黒川華愛、中江弥生、小笠原佳衣、清水遼



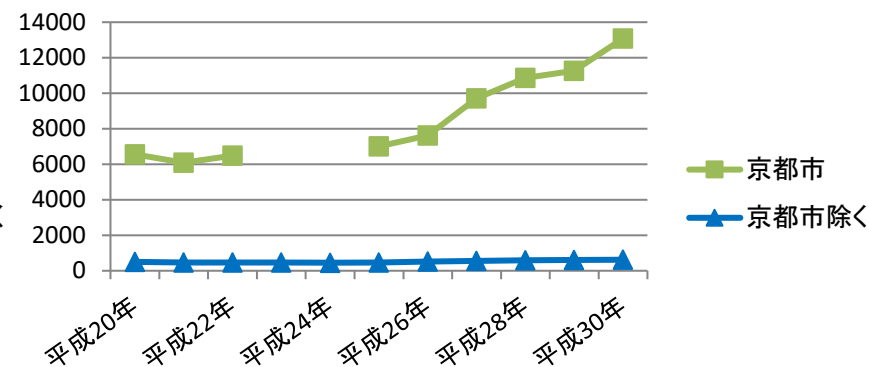
京都府観光の現状：京都市への集中

京都府下の
観光消費額は
府全体の約5%

観光入込客数の推移(万人)



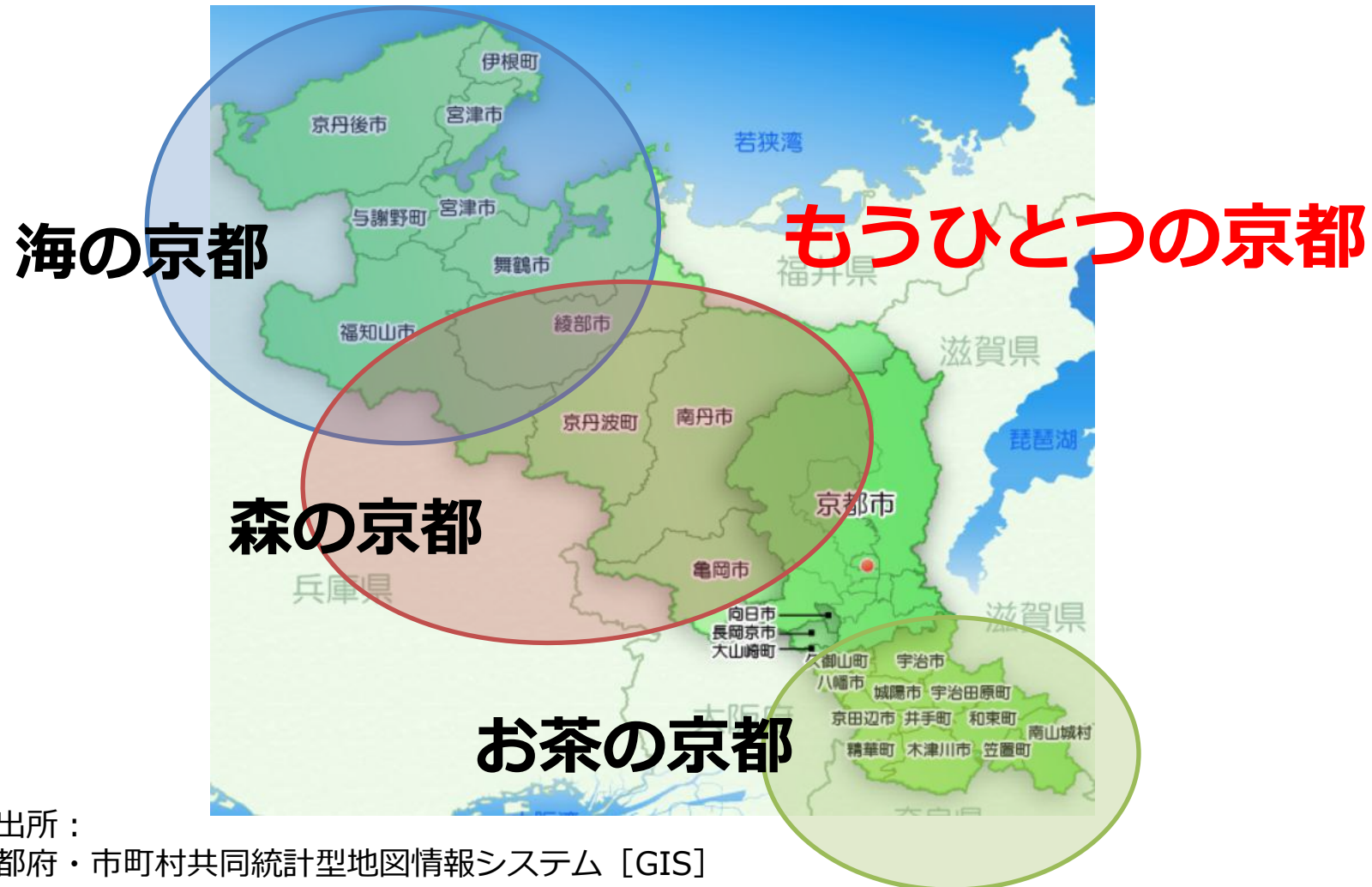
観光消費額の推移(億円)



- ✓ 京都府下の入込客数と消費額は京都市に比べてかなり少ない
- ✓ 府下への誘客(観光分散化)への政策対応は必須
→「もうひとつの京都」で具体化へ

資料：京都府商工労働観光部「平成30年（2018年）京都府観光入込客調査報告書」
京都府(2019)「京都府総合計画」基本計画、85頁

もうひとつの京都



画像出所:

京都府・市町村共同統計型地図情報システム [GIS]

<https://g-kyoto.gis.pref.kyoto.lg.jp/g-kyoto/PositionSelect?mid=671&mtp=pfm>

リサーチクエスト

✓ 森の京都へ観光客を誘客するには？

→ 園部・京丹波エリアの活性化がカギ

京都府の回答＝「京都夢実現プラン」 －京都府総合計画(2019年10月策定)

- ✓ 府内全ての地域の活性化が目標
- ✓ 4年間で取り組む基本計画に、
エリア構想が謳われている
- ✓ 京都スタジアムを中核とする
スポーツ＆ウェルネス構想が提唱・・・

→森の京都の強みである食は活かされる？

→既存のスポーツ施設(丹波自然運動公園)の活用は？

→園部・京丹波エリアの強みは、
“スポーツ＆ウェルネス”にマッチ？



私たちの回答

What

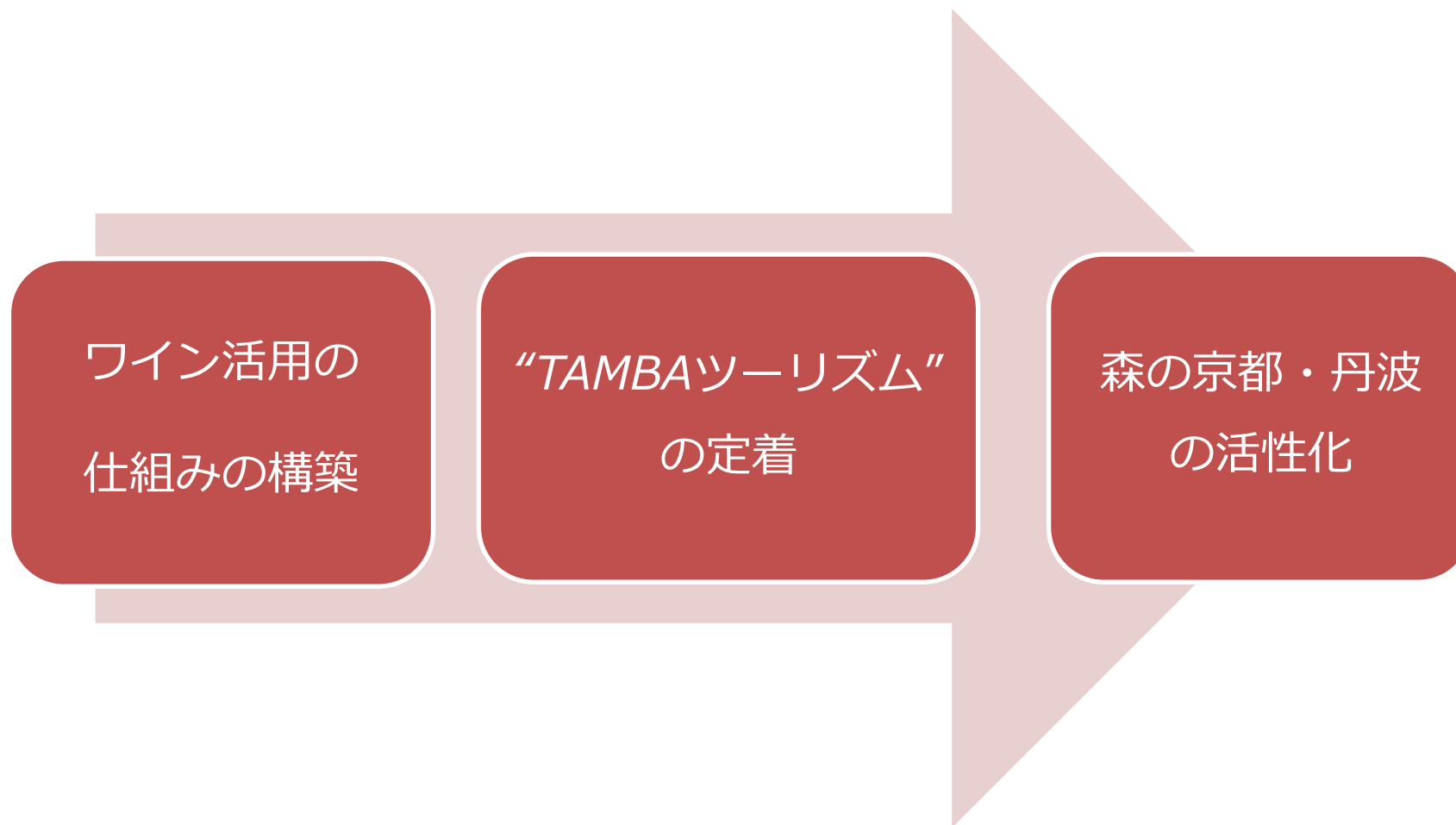
Why

How

TAMBAツーリズム



本提言の骨格



目次

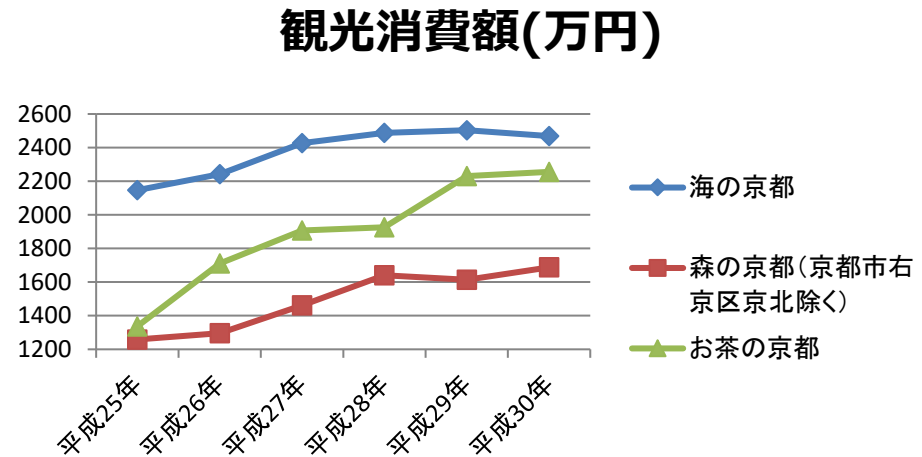
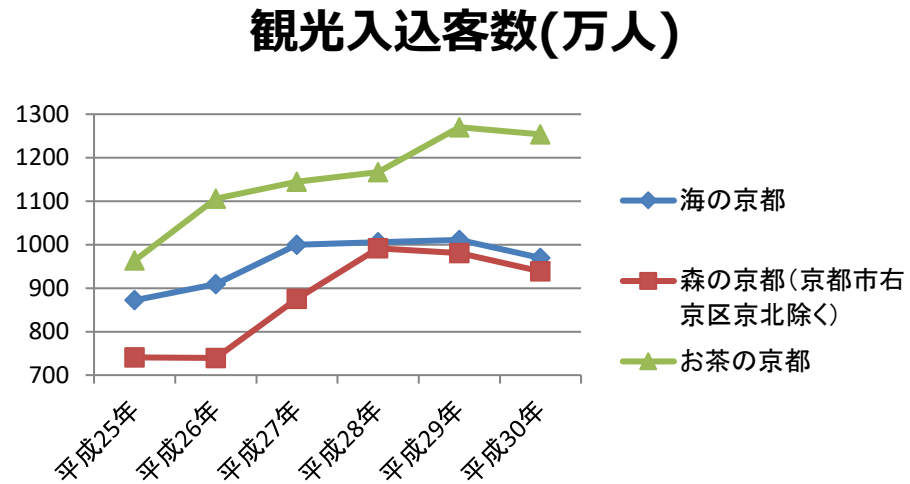
1. エピソード～現状分析からリサーチクエッションへ～
2. 観光×ワイン＝ワインツーリズムについて
3. 園部・京丹波エリア観光の起爆剤
～丹波ワインについて～
4. “*TAMBA*ツーリズム”普及に向けた政策提言
5. 残された課題
6. 参考文献・参考資料・参考ページ

An aerial photograph of a wide river valley. The river flows from the top center towards the bottom. The valley floor is a patchwork of green agricultural fields and some small clusters of buildings. In the background, a range of rolling mountains is visible under a light blue sky with scattered white clouds.

エピソード

～現状分析からリサーチクエストンへ～

森の京都観光の現状：消費額が少ない



- ✓ 海の京都やお茶の京都と比べ、入込客数・消費額ともに劣る
- ✓ 入込客数に対して消費額が少ない(宿泊が影響?)

資料：京都府商工労働観光部「平成25～30年（2013～2018年）京都府観光入込客調査報告書」

森の京都とは

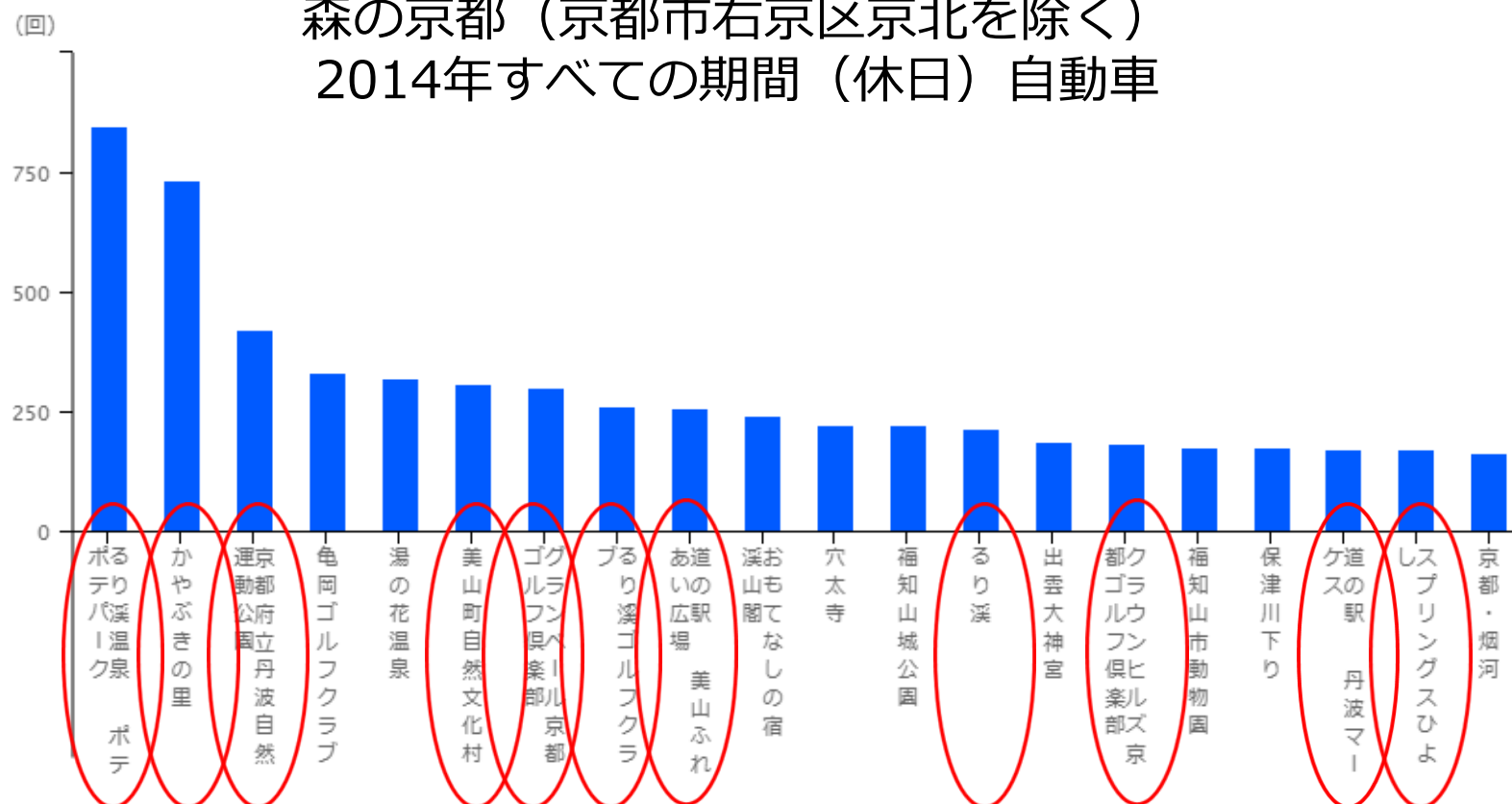


画像出所：京都府観光ガイド～京都府観光連盟公式サイト～(<https://www.kyoto-kankou.or.jp/forest/>)

森の京都の観光地の順位

森の京都の観光目的地

森の京都（京都市右京区京北を除く）
2014年すべての期間（休日）自動車



データ出所：株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

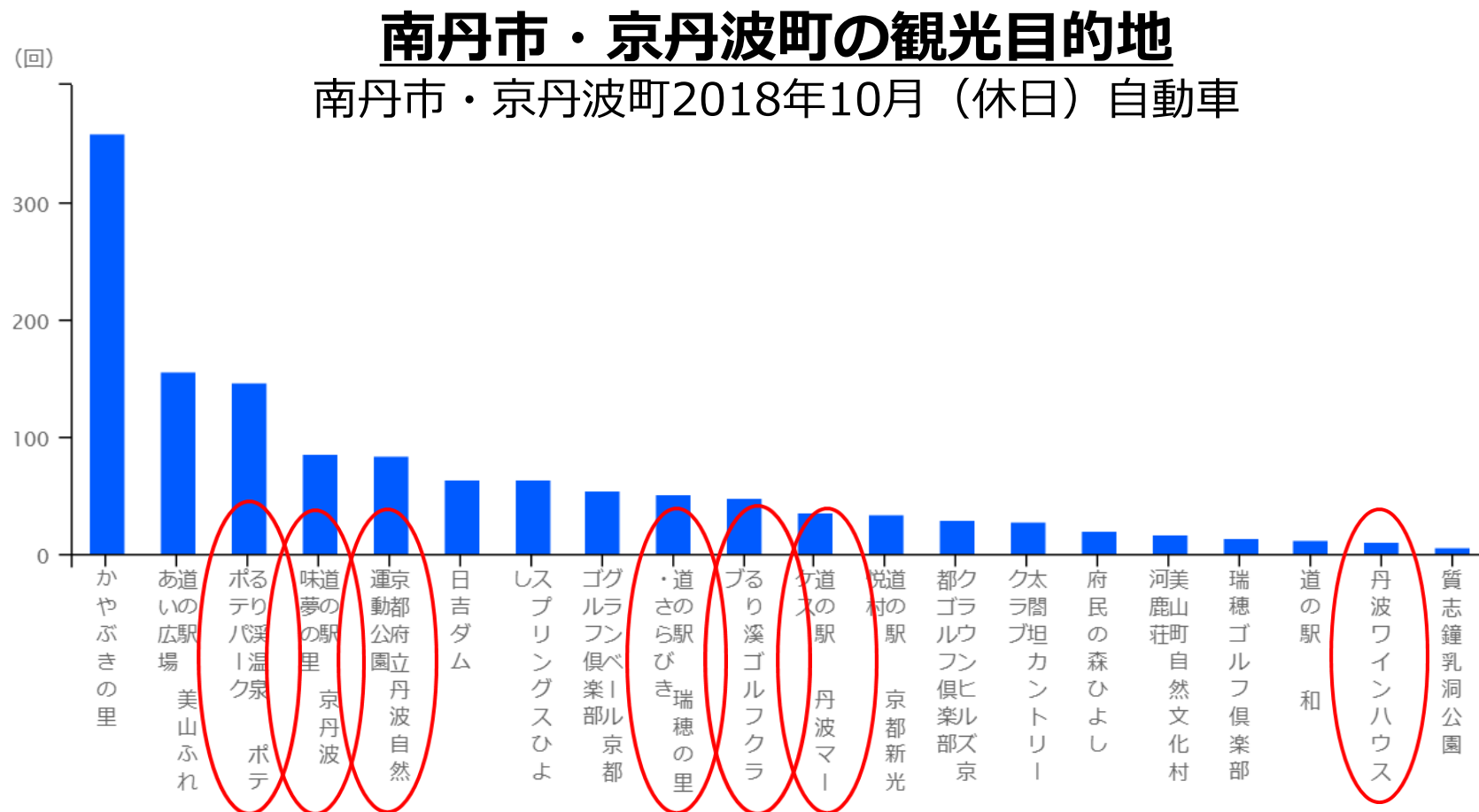
観光地の分析から考えられること

- ✓南丹市・京丹波町は福知山市、綾部市、亀岡市と比べて多くの観光客をひきつける資源が存在する



**南丹市・京丹波町の観光地をパッケージ化して
ツアーにすると相乗効果が高まる可能性**

南丹市・京丹波町の観光地の順位



データ出所：株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

園部・京丹波エリアの強み

食

- 丹波黒豆
- 丹波松茸
- 丹波栗
- 丹波ワイン
- ジビエ

自然と景観

- 里山
- 森林

アウトドア

- 丹波自然運動公園
- キャンプ
- トレッキング

園部・京丹波エリアの強みを活かすには？

- ✓ 園部・京丹波エリアには食を中心として自然や景観、アウトドアに相当する地域資源を有している
- ✓ 美山が注目されがちだが、園部・京丹波エリアにも魅力的な観光要素が存在する



すそ野の広いワイン産業を軸に、
個々の地域資源をパッケージ化すれば、
さらなる誘客が見込めるのではないか？

リサーチクエスト

✓ 森の京都を活性化するには？

→ 園部・京丹波エリアの活性化策がカギ

"TAMBAツーリズム"

TAMBAツーリズム



A glass of red wine is positioned on the left side of the frame, partially filled with a deep red liquid. The glass is set against a background of light-colored, horizontally-grained wood. The text is overlaid on the right side of the image.

観光×ワイン＝ ワインツーリズムについて

なぜ観光×ワインなのか

ワイン愛好家は

- ・ 熱烈な人が多い
- ・ テロワールにこだわる
- ・ 食との相性(マリアージュ)を楽しむ

(武者2015:154,158,159)



「ワインは六次産業という概念に適している」
(武者2015:159)

なぜ観光×ワインなのか(続き)

- ✓ ワインは六次産業という概念になじみやすい。
→ ワインを六次産業化するとは？



ワインツーリズム

一次＋二次＋三次＝六次

一次：自社畑を保有してブドウを栽培

二次：そのブドウを使って醸造し、瓶詰めして出荷

三次：ワインの試飲所やレストランを併設

ワインツーリズムとは

✓ ワインツーリズムとは？

「**テロワール**」を楽しむもの

※テロワール

「ヴィンヤードを取り巻く一切の環境」(内藤2009:2)

└「ワインの原料となるぶどうを栽培する畑



「ワインというのは飲むシチュエーションで
味が変わる」(武者2015:159)

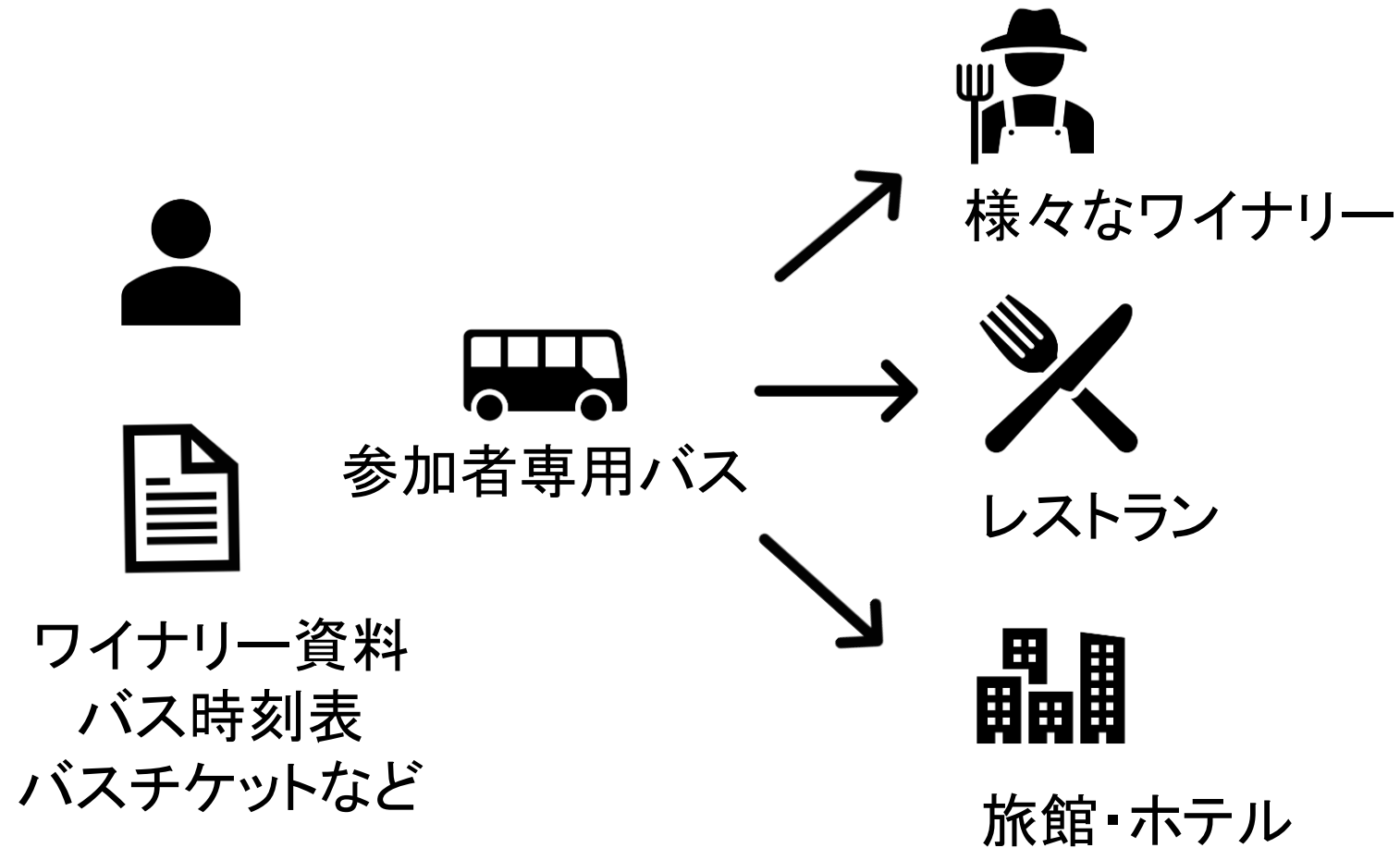
ワインツーリズムの事例

「ワインツーリズムやまなし」

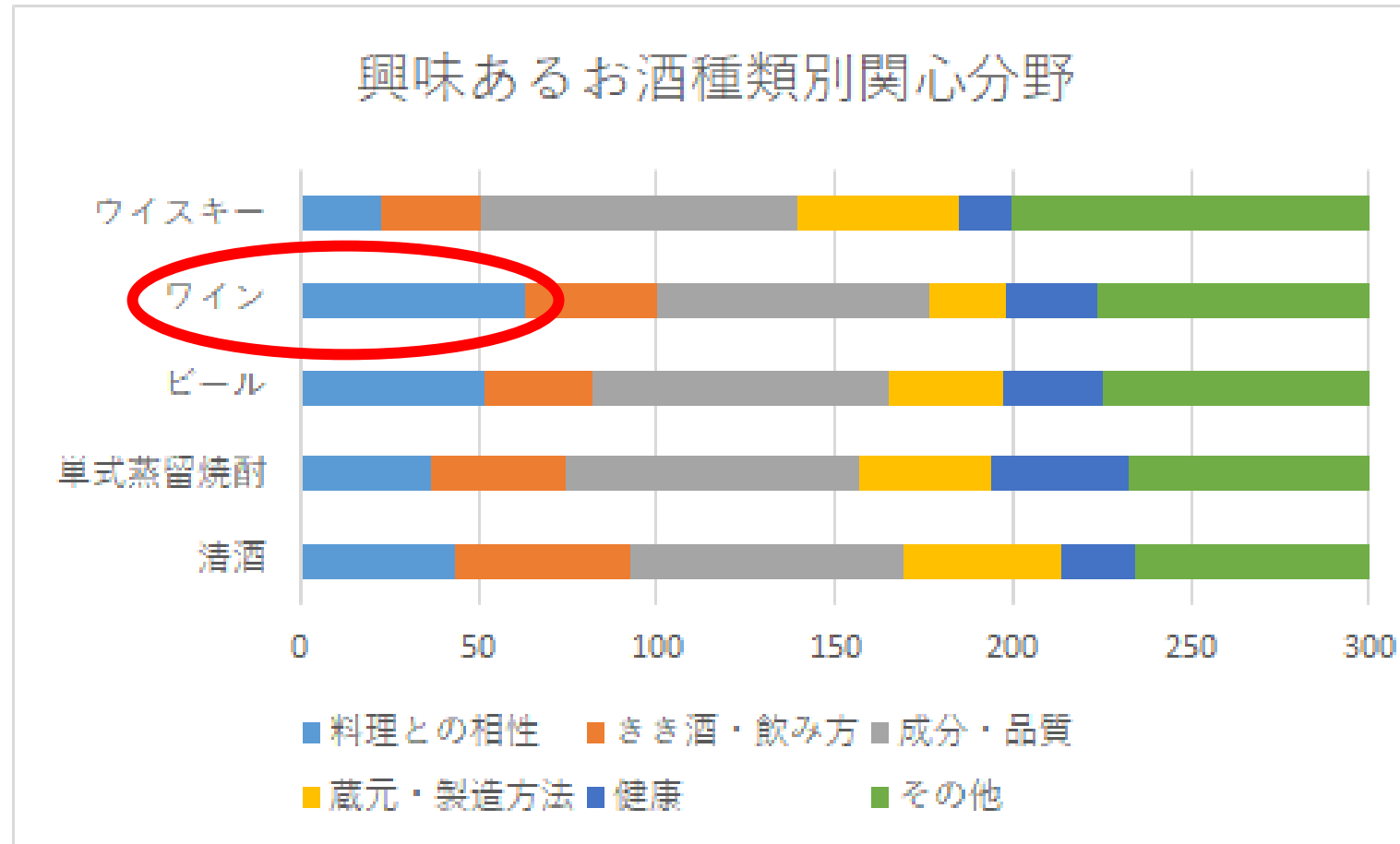
- ✓ 様々なワイナリーを回る計画を**独自に立て**、
好きなワイナリーを専用バスで3日かけて巡る
(お勧めルートやガイドマップを配布)

→**ワインを取り囲む一切の環境を楽しむ**

ワインツーリズムの事例(続き)



ワイン好きの関心



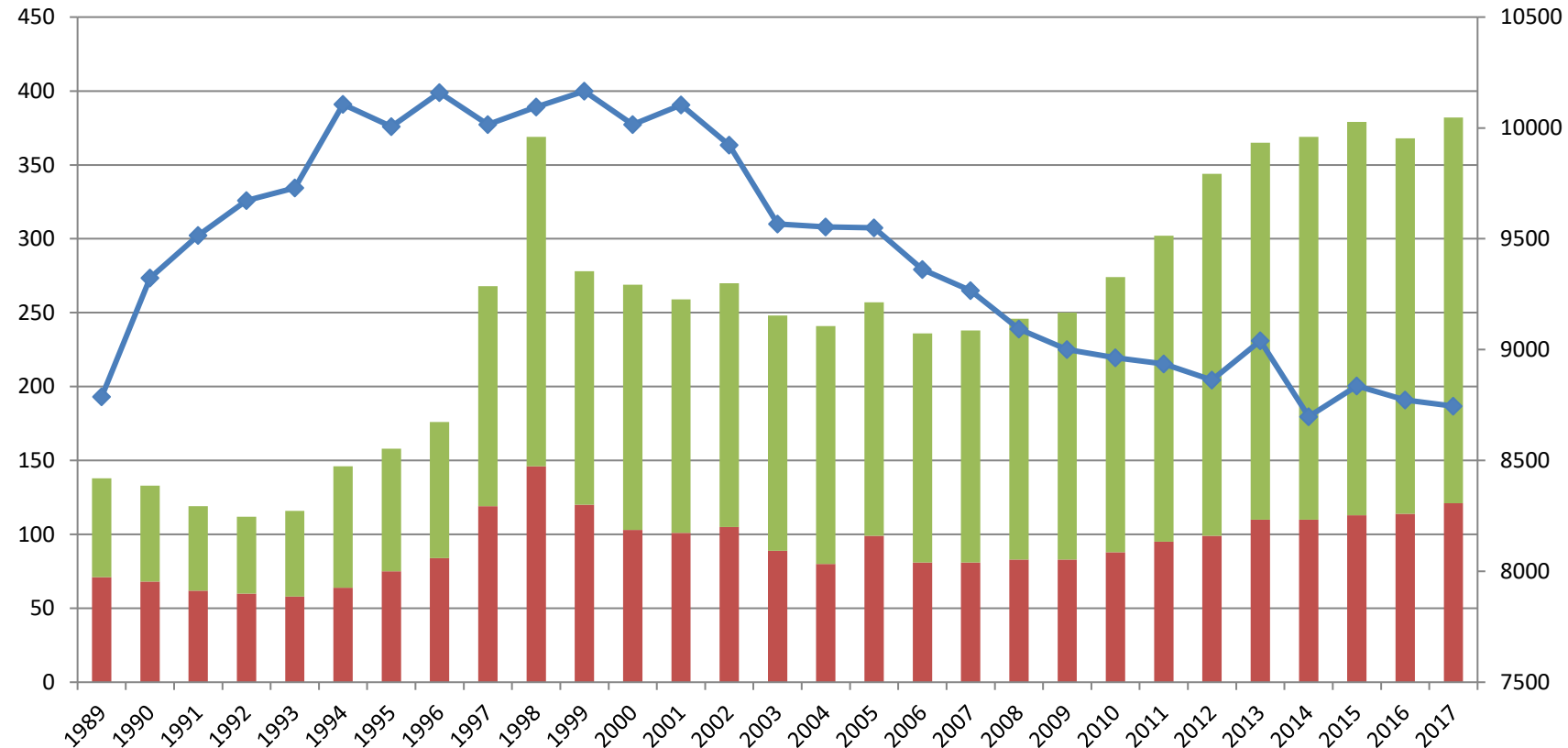
出所：倉光・宇都宮・橋爪「酒類に関する国民ニーズ調査」(平成20年2月実施、酒類総合研究所報告)

✓ ワイン愛好家の関心は料理との相性(マリアージュ)

ワインツーリズムに必要な要素(内藤2009)

要素	必要度合い
ワイナリーによる 見学者の受け入れ	必須
レストラン	準必須
宿泊施設	
ヴィンヤード	
ワイン関連イベント	必須ではないが、 ツーリストがより 豊かな時間を過ごすため仕 掛けとして重要
ミュージアム	
ライブイベント	

ワイン産業に商機はあるかー増え続けるワインの需要



- ✓ 酒類全体の出荷量は減少傾向
- ✓ 一方ワインの出荷量は増加傾向

ワイン産業に商機はあるか(続き)

－関西では需要に比べて供給が少ない

順位	生産量		出荷量		消費量	
	ワイン全体	日本ワイン	ワイン全体	日本ワイン	全体	一人当たり
1	神奈川	山梨	神奈川	山梨	東京	東京
2	栃木	長野	栃木	長野	神奈川	山梨
3	山梨	北海道	山梨	北海道	大阪	京都
4	長野	山形	岡山	山形	埼玉	神奈川
5	岡山	岩手	長野	岩手	千葉	大阪
6	北海道	新潟	北海道	新潟	北海道	北海道
7	山形	岡山	千葉	岡山	愛知	長野
8	愛知	宮崎	静岡	宮崎	兵庫	和歌山
9	岩手	島根	山形	京都	福岡	宮城
10	新潟	兵庫	大阪	栃木	京都	千葉

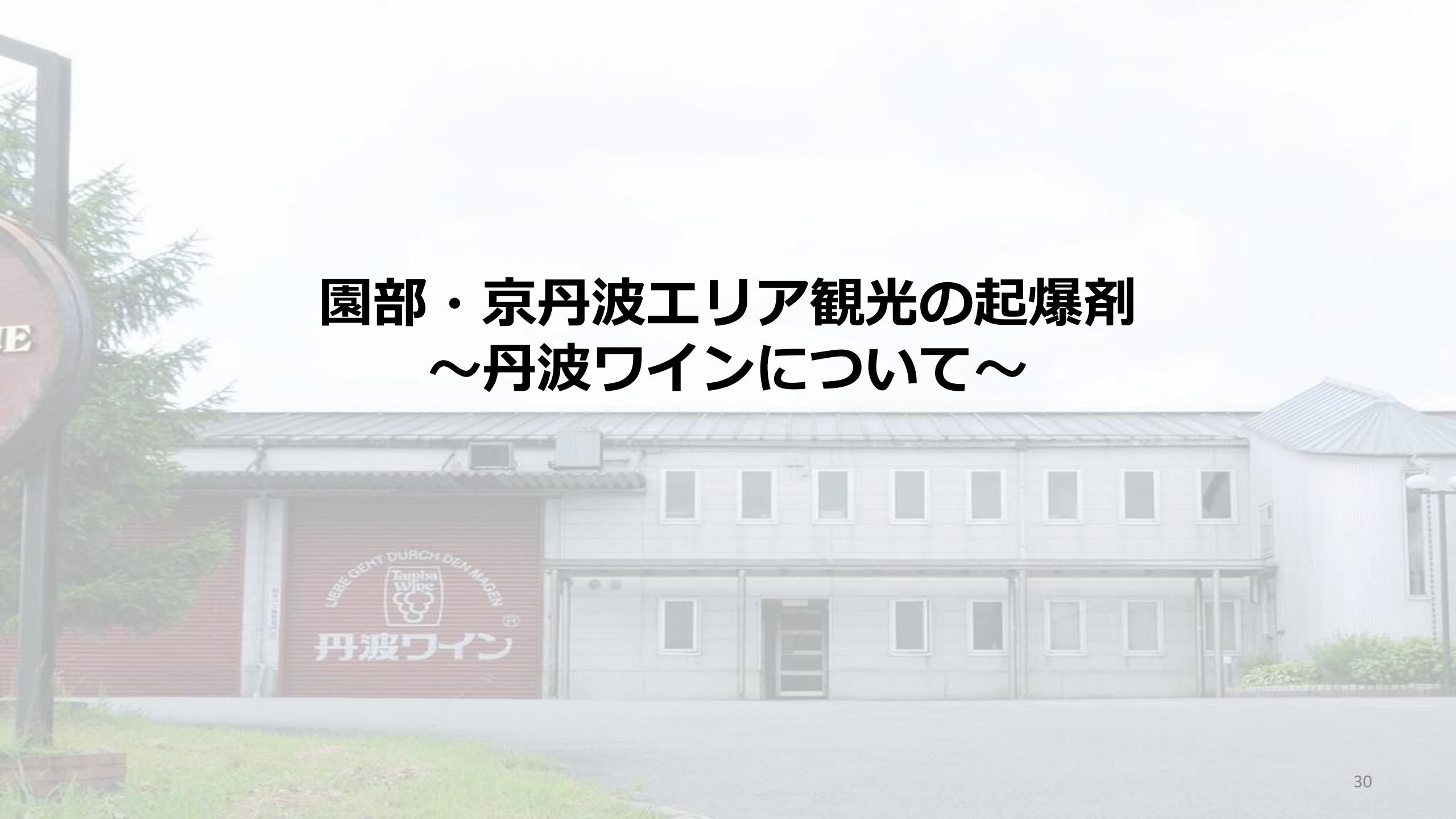
資料：国税庁課税部酒税課(2019)「国内製造ワインの概況（平成29年度調査分）」

✓京都人はワイン好き(一人当たり消費が全国3位)

小活－ワイン産業に商機あり

- ✓ 日本人のワインへの関心は高まっている
- ✓ 日本は輸入のワインに頼っている
→国産ワインの活性化の可能性
- ✓ 酒類全体の消費が低迷する中で
ワイン消費量は日本酒と並ぶ程に伸びている
- ✓ 近畿圏ではワインの需要に供給が追いついていない

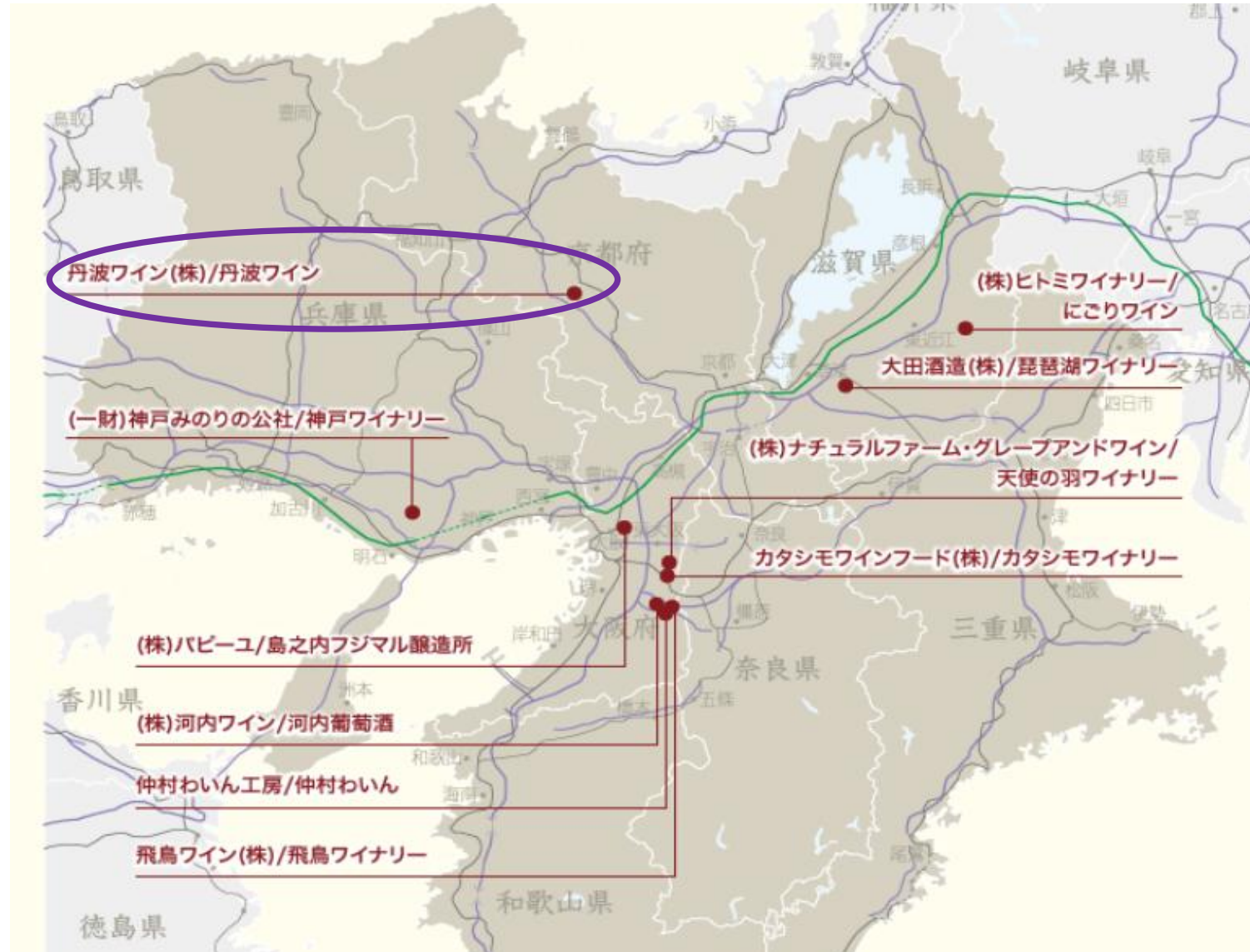
園部・京丹波エリア観光の起爆剤 ～丹波ワインについて～



近畿のワイナリー

画像出所：日本ワイナリー協会

(<https://www.winery.or.jp/winery-map/area/kinki/>)



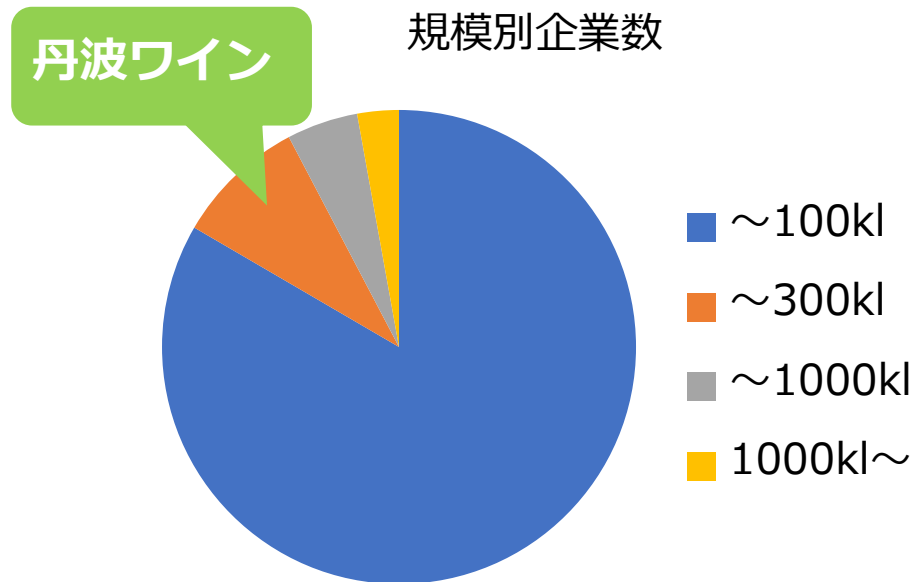
丹波ワインとは①

- ✓ 創業者：黒井哲夫
- ✓ 理念：「京都の食文化に合うワインを創る」
- ✓ 創業年：1979年→近畿では5番目に古い
国内ワイナリー138社のうち2000年以降設立が36社(約4分の1)

データ出所：株式会社帝国データバンク(2017)「ワイン製造業者の経営実態調査」

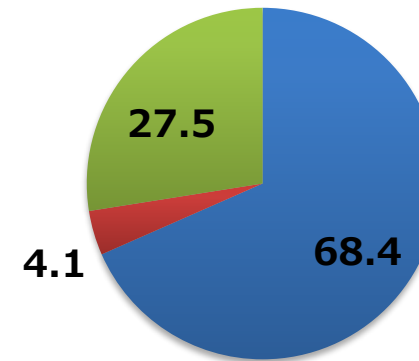
丹波ワインとは②

✓生産量(2018年度)
284kl(約40万本)



✓丹波で一から作る
ワインが全体の**約10%**

国内市場における
ワイン流通量の構成比
(平成29年度推計値)



■ 輸入分 ■ 日本ワイン ■ その他国内分 ■

資料：国税庁課税部酒税課(2019)「国内製造ワインの概況（平成29年度調査分）」

丹波ワインとは③



- ✓ブドウ畑は6ha(国内中規模)
 - ✓約50品種のワイン(栽培ぶどう品種の多さに特徴)
 - ✓テロワールにこだわり、自社農園のブドウのみで作った(ワイン愛好家が好む)希少性の高いワインも製造
 - ✓過去に多くの賞を受賞
 - ・ JapanWineChallenge2010 入賞 (2010)
 - ・ JAPAN WINE COMPETITION 奨励賞受賞 (2009)
 - ・ MONDE SELECTION 金賞受賞 (1983-88)
- など

丹波ワイン④

✓ ワイナリーツアー（無料）

- ・ブドウ畑とワイナリーの見学
（ブドウ畑→仕込場→搾り機→瓶詰めライン→熟成庫）
- ・ワインの試飲

✓ アクセス

JR嵯峨野線 園部駅から車で約30分
※レストラン利用で、土日祝日のみ
※園部駅からの無料送迎あり

丹波ワイナリーはワインツーリズムの要素をどの程度満たす？

要素	必要度合い	丹波ワイン
ワイナリーによる 見学者の受け入れ	必須	△ (醸造家と話す ことができない)
レストラン	準必須	○
宿泊施設		×
ヴィンヤード		○
ワイン関連 イベント	ツーリストがより 豊かな時間を過ごすため 仕掛けとして重要	△
ミュージアム		
ライブ イベント		

他のワイナリーとの比較

	丹波ワイン	サンクゼール	ヒトミワイナリー
場所	京都府京丹波町	長野県飯綱町	滋賀県東近江市
果実酒の製造・販売			
レストラン	○	○	△(パン工房)
その他事業	自社ブランド商品の開発・販売	ジャム・その他食品の製造販売、売店等の直営・フランチャイズ展開	パン製造
創業年	1979年	1979年	1991年
ワイン事業開始年		1990年	
生産量	284kl／40万本	240kl	10万本
栽培面積	6ha	12ha	自社農園5.5反 賃借農場8.5反
従業員数	28人	865人	16人
価格(1本あたり)	1100～5500円	1100円～5500円	1210～4400円



“TAMBAツーツリズム”普及 に向けた政策提言

提言の基本的方向性

ワインをキーコンテンツとして
園部・京丹波エリアの
地域資源をパッケージ化

 **“TAMBAツーリズム”の提唱**

提言の骨格

第一段階：ワインツーリズム充実のインフラ整備

(3年以内)

- 宿泊施設の確保
- 域内交通の整備

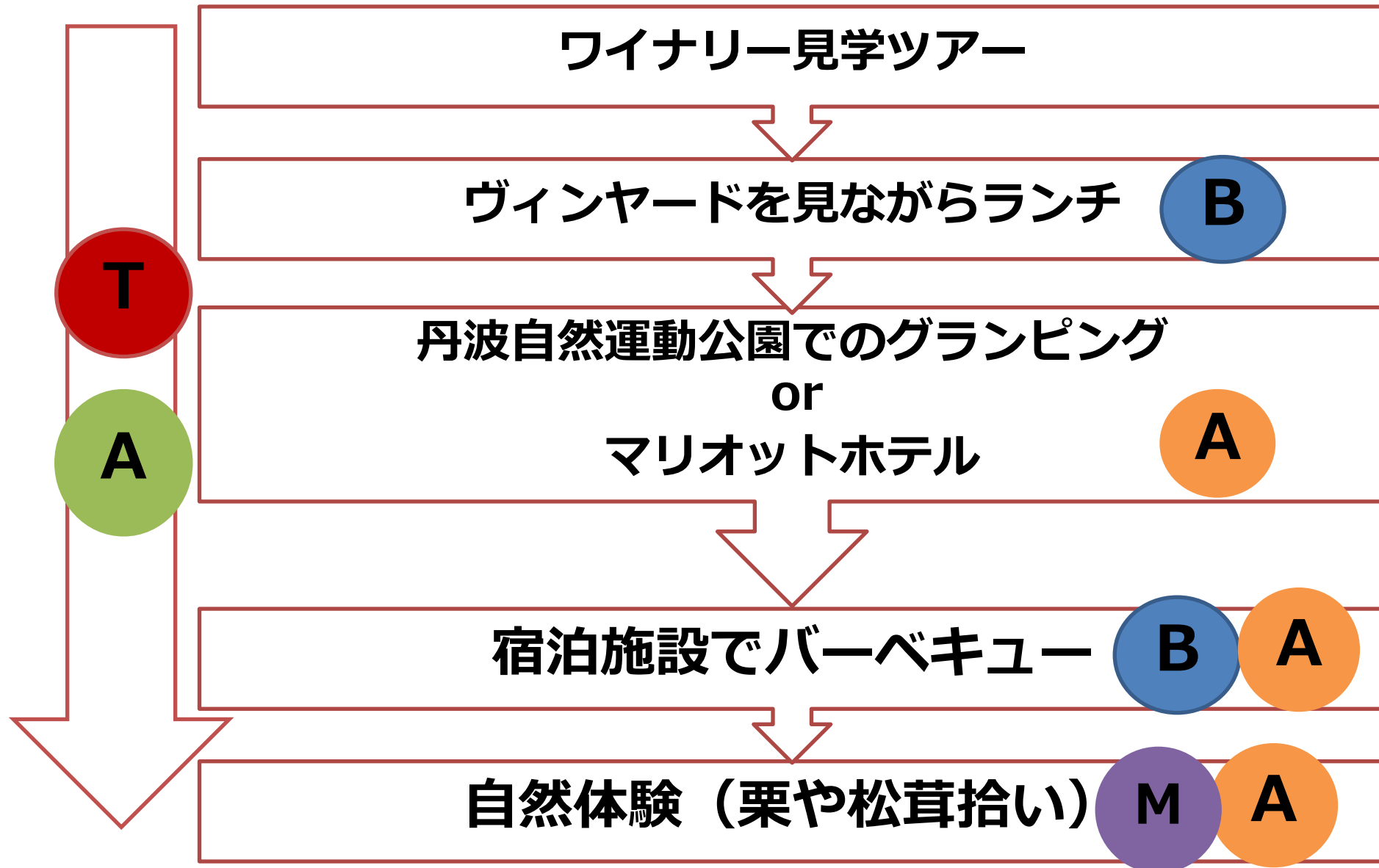
第二段階：ワインツーリズムから“*TAMBA*ツーリズム”へ

(5年～10年)

TAMBAツーリズム



TAMBAツーリズム(続き)



“TAMBAツーリズム”実現のための7つの提言

提言 1) 丹波ワインツアーのコンテンツ充実

提言 2) ファミリー層向けにグランピングの提供

提言 3) シニア層向け宿泊プランの提供

提言 4) 周遊バスの運行による地域資源のネットワーク化

提言 5) ジビエ提供のための施設の増設

提言 6) 継続的な活性化ための地域人教育

提言 7) 森の京都DMOの機能強化

提言 1) 丹波ワインツアーのコンテンツ充実

今は製造コースのみ！



製造コースと醸造コースの実施

- ・ 製造コース：無料で見学可能
- ・ 醸造コース：有料で見学可能
(醸造家とも話せる)

- ✓ ツアーのコンテンツを充実させることでワイン愛好家の満足度を高める

宿泊施設の確保

- ✓ 先行研究よりワインツーリズムには
宿泊施設が必須！
- ✓ より豊かなAmenity & Activityの実現

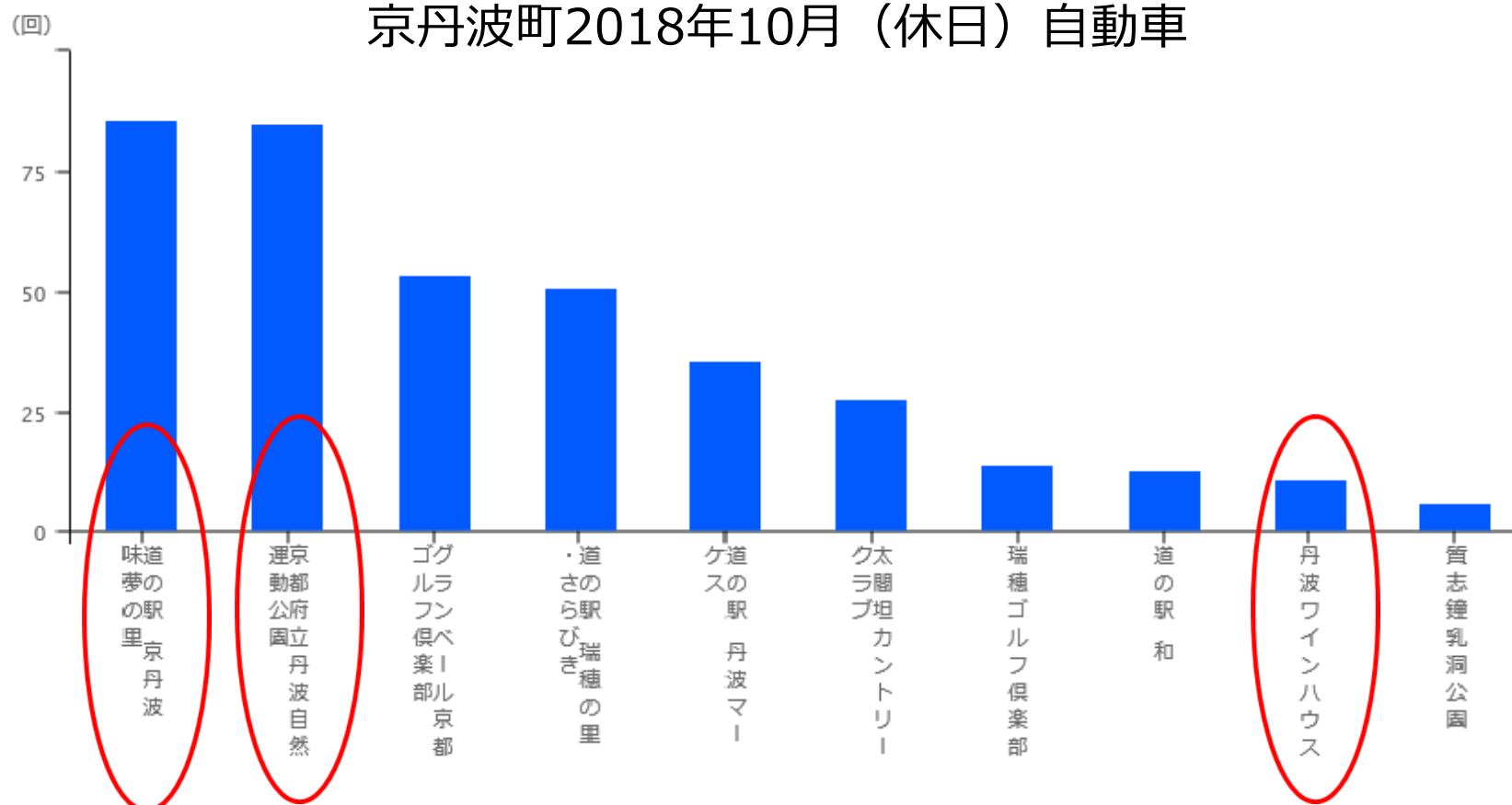


- ① 丹波自然運動公園でのグランピング
- ② 味夢の里で開業予定のマリオットホテル
での宿泊を提案！

宿泊施設の確保(続き)

京丹波町の観光目的地

京丹波町2018年10月（休日）自動車



データ出所：株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

提言 2) 家族層向けにグランピングの提供

丹波自然運動公園

✓ 丹波ワインハウスから車で5分



BBQ



キャンプファイヤー

提言 2) 家族層向けにグランピングの提供(続き)

- ✓ 年中気軽にスポーツを楽しむことができる
(プール、テニスコート、パターゴルフ場など)
- ✓ トレーニングセンターが設備されているため本格的なスポーツを楽しむことができる



提言 2) 家族層向けにグランピングの提供(続き)

丹波自然運動公園内にグランピング施設の建設

- 立地条件に合う場所の選定
- グランピングに必要なギアの確保 など

既存のグランピング場、キャンプ場の利用・整備

- GRAX PREMIUM CAMP RESORT
- 質志鐘乳洞公園 など ⇒ただ、距離が少し遠い

提言3) シニア層向け宿泊プランの提供

京都新聞2018年9月21日「京都縦貫道京丹波PA隣地にホテル 20年開業予定 訪日客を期待」
(<http://www.komei.or.jp/km/kyotanba-shinozuka-nobutaro/files/2018/09/f916fd75b2bce753a47410bdb6db96b0.pdf>)

マリオットホテル

京都縦貫道 京丹波PA 隣地にホテル 20年開業予定 訪日客を期待

京都縦貫自動車道の京丹波パーキングエリア(PA)内にある道の駅「京丹波味夢の里」(京都府京丹波町曾根)の隣接地に、民間企業がホテル建設を計画していることが20日、分かった。土地を所有する同町は建設に協力する方針。2020年に開業予定で、町内観光の活性化やインバウンド(訪日観光客)などの誘客を目指す。高速道のPAに隣接するホテルの設置は府内初という。

味夢の里は縦貫道の全線開通に合わせ、2015年に開業した。農産物直売所やレストランがあり、年間約290万人が訪れる。

町は町内に四つある道の駅の活性化事業を募集したところ、不動産大手の「積水ハウス」(大阪市)などでつくる合同会社から味夢の里でのホテル建設が提案され、8月に協議対象に選定した。

ホテルは、一般道から進入する側の駐車場に事業者が建設して運営し、町は土地を貸し付ける。3階建て71室を備え、レストランは作らず、共用のキッチンやダイニングを設ける。京丹波の魅力を知ってもらおう書籍を置き、同町産の弁当やワインを販売して観光振興につなげる。京都市とクルーズ船が寄港する舞鶴市の中間にある立地を生かしてインバウンドの利用も期待している。

今後、事業者と協定書を結び、道の駅の区域変更などを国と協議する。町商工観光課は「町内に宿泊施設が少ないのが課題だった。民間活力の活用で道の駅の付加価値が高まり、ホテルが町内や京都府内を観光する拠点になる」と期待する。

(秋田久氏)

民間企業が隣接地にホテルの建設を計画している道の駅「京丹波 味夢の里」(京丹波町曾根)



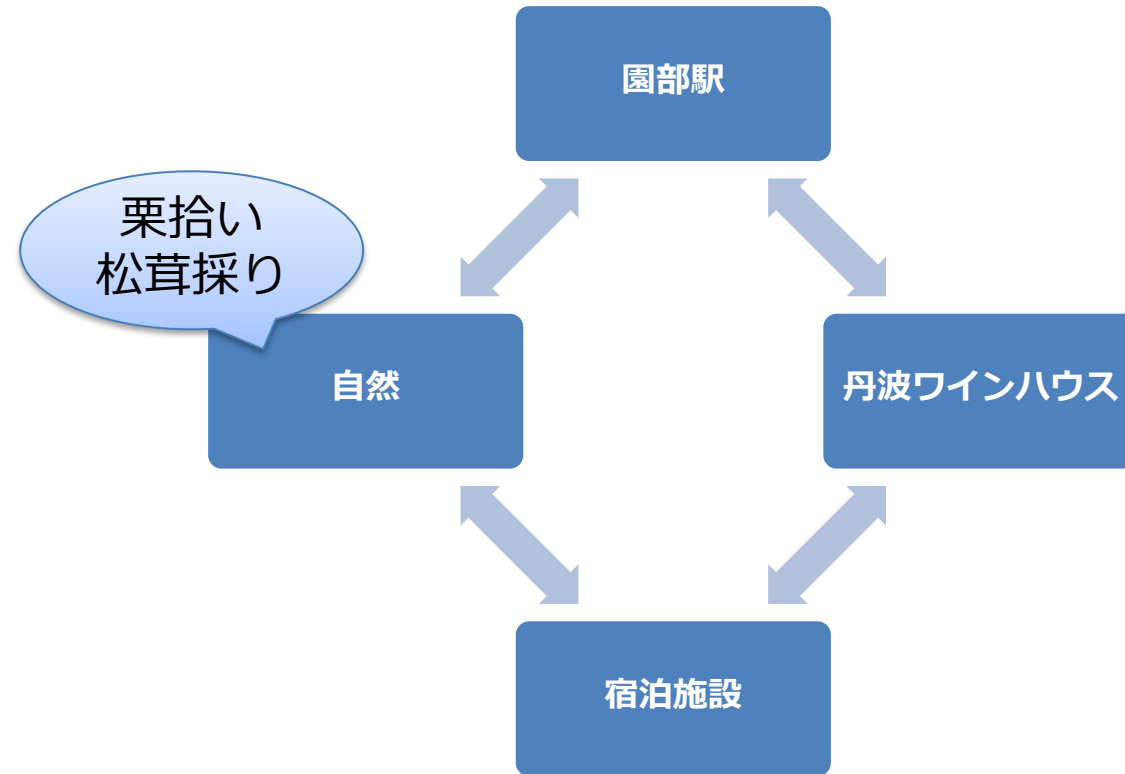
提言 3) シニア層向け宿泊プランの提供(続き)

- ✓2020年冬までに道の駅「京丹波 味夢の里」で
開業予定
- ✓目的：京丹波町の交流促進及び地域活性化
- ✓地上三階建て 71室を建設予定
- ✓アクセス：丹波ワインから車で13分



画像出所：京丹波町商工観光課(2018)「道の駅「京丹波 味夢の里」宿泊施設整備による交流促進・地域活性化事業について」
(<http://www.komei.or.jp/km/kyotanba-shinozuka-nobutaro/files/2018/09/b8bdad05fc55bac7f05e0ca4c04e024c.pdf>)

提言 4) 域内交通の提供によるネットワーク化



- ✓ 丹波ワインハウスや園部駅、丹波自然運動公園、マリオットホテルなどの宿泊施設との間を結ぶ周遊バスを走らせる

提言 5) ジビエ提供のための施設の増設

✓食肉処理施設の不足

⇒ジビエ(鹿)に特化した食肉処理施設の増設

現状：鹿肉のかきうち



提言 6) 継続的な活性化のための地域人教育

- ✓ 京都府立須知高等学校にジビエやワインに特化した専門コースを設立
- ✓ 特に猟師が不足している(兵田2013: 11,12)
 - ⇒ ・ 猟師免許取得に向けた教育の実施
 - ・ 猟師育成のイベントや講座への参加による体験学習

提言7) 森の京都DMOの機能強化

- ✓ 森の京都DMOに観光協会や商工会を組み込む
 - ✓ 森の京都DMOがTAMBAツーリズムの
プラットフォーム・ビルダーになる
- 森の京都DMOが**リーダー（司令塔）**となって
TAMBAツーリズムの実現を目指す！

残された課題

- ✓ 自然体験の内容の具体的提案
- ✓ 政策実施にかかる予算の試算
- ✓ 財源確保のための具体案の提示
- ✓ 各々の施設同士の密接な連携のための具体策の提案

参考文献

- 内藤伸浩(2009)「ワインツーリズムの可能性と示唆」三井不動産S&E総合研究所調査研究報告
(https://web2.mitsuifudosan.co.jp/s-e/infomation/pdf/report_090225.pdf、2019年12月9日最終閲覧)
- 兵田大和（2013）「獣害対策と一般家庭への鹿・猪肉普及における戦略的PRの実証的研究」、同志社大学大学院総合政策科学研究科修士論文
- 武者加苗(2015)「北海道のワイン産業における集積一余市を日本のナパに」札幌大学総合研究6巻153-172頁

参考資料

- 株式会社帝国データバンク(2017)「ワイン製造業者の経営実態調査」
- 株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」
- 京都新聞2018年9月21日「京都縦貫道京丹波PA隣地にホテル 20年開業予定 訪日客を期待(<http://www.komei.or.jp/km/kyotanba-shinozuka-nobutaro/files/2018/09/f916fd75b2bce753a47410bdb6db96b0.pdf>)
- 京丹波町商工観光課(2018)「道の駅「京丹波 味夢の里」宿泊施設整備による交流促進・地域活性化事業について」
(<http://www.komei.or.jp/km/kyotanba-shinozuka-nobutaro/files/2018/09/b8bdad05fc55bac7f05e0ca4c04e024c.pdf>)

参考資料(続き)

- 京都府(2019)「京都府総合計画」基本計画
- 京都府(2019)「京都府総合計画」リーフレット
(http://www.pref.kyoto.jp/shinsougoukeikaku/documents/leaflet_1.pdf)
- 京都府商工労働観光部「平成25－30年（2013－2018年）京都府観光入込客調査報告書」
- 倉光潤一・宇都宮仁・橋爪克己「酒類に関する国民ニーズ調査」(平成20年2月実施、酒類総合研究所報告)
- 国税庁課税部酒税課(2019)「国内製造ワインの概況（平成29年度調査分）」

参考ページ

- 京都丹波ワイン公式サイト(<https://www.tambawine.co.jp/>)
- 京都府観光ガイド ～京都府観光連盟公式サイト～(<https://www.kyoto-kankou.or.jp/>)
- 京都府・市町村共同統計型地図情報システム〔GIS〕(<https://g-kyoto.gis.pref.kyoto.lg.jp/g-kyoto/PositionSelect?mid=1>)
- 京都府立丹波自然運動公園(<http://www.kyoto-tanbapark.or.jp/>)
- St.Cousair:サンクゼール(<http://www.stcousair.co.jp/>)
- 鹿肉のかきうち(<https://shikaniku-kakiuchi.com/%E2%80%8B>)
- 日本ワイナリー協会(<https://www.winery.or.jp/>)
- NigoriWine HITOMIWINERY(<http://www.nigoriwine.jp/>)
- 森の京都「京都の「森」総合案内サイト」(<https://morinokyoto.jp/>)
- ワインツーリズムやまなし2019・秋(<https://www.yamanashiwine.com/>)